

高齢者ショートステイにおける生活相談員業務の特性

同志社大学大学院社会学研究科 口村 淳 (会員番号 06807)

キーワード： 短期入所生活介護、ショートステイ、生活相談員

1. 研究目的

短期入所生活介護（以下、ショートステイ）における生活相談員（以下、相談員）業務の「実施状況」ならびに「主導性」を明らかにし、その特性について検討する。

2. 研究の視点および方法

1) 調査対象および方法

「平成 17 年介護サービス施設・事業所調査名簿」に記載されている短期入所生活介護 6,216 施設から、無作為抽出した 500 施設に所属する生活相談員（1 施設 1 名）を対象に、自記式郵送調査を実施した。調査期間は 2010 年 10 月 1 日～31 日である。有効回収数は 253 通で、回収率 50.6%であった。

2) 調査項目

調査内容は、施設・回答者の基本属性および相談員業務の内容である。相談員業務の内容は、和気（2006）の実施した調査項目を参考に、口村（2010）のショートステイにおける相談員業務のカテゴリ生成の結果を加味して選定した 28 項目である。回答方法は、東京都社会福祉協議会（2010）の調査を参考に、業務の「実施状況」と「主導性」の視点から質問する形式（4 件法）を採用した（表 1）。

表1 回答方法

実施状況	1. 他職種が主として実施しており、相談員は関与していない	主導性	1. 他職種が主として実施すべきである
	2. 相談員と他職種が協働で実施しているもの、他職種が中心である		2. 相談員と他職種が協働で実施するもの、他職種が中心となるべきである
	3. 相談員と他職種が協働で実施しているもの、相談員が中心である		3. 相談員と他職種が協働で実施するもの、相談員が中心となるべきである
	4. 相談員が主として実施している		4. 相談員が主として実施すべきである

3. 倫理的配慮

調査依頼書に研究目的と倫理的配慮（プライバシーの保護、無記名であること、研究目的限定した調査結果の使用、施設や個人が特定されない形での分析と公表）を明記した。

4. 研究結果

1) 回答者の属性

回答者の属性は、男性が 57.3%、女性が 42.7%であった。年齢は、30 代が全体の約半数を占め、平均年齢は 37.6 歳（22～66 歳）であった。

2) 相談員業務の内容

本研究の回答方法は、値の等間隔性が保障された間隔尺度や比率尺度ではない。しかし、

一定の序列を表す順序の尺度と考えられることから、「実施状況」および「主導性」の回答項目に1点から4点までの得点を与え、それらを集計し、平均値を算出した。数値が高いほど、「実施状況」および「主導性」が高いと一応の解釈ができる。また、両項目の平均値の差については、t検定を行った(表2)。

表2から、ショートステイにおける相談員業務の傾向として、連絡調整(15,16,17)相談(6,27)入退所(1,2,3,13)に関する業務が、「実施状況」「主導性」ともに高い値がみられた一方で、介護関連(7,8,10)の値は両項目ともに低いことがわかった。さらに、「実施状況」と「主導性」の平均値の差を検討したところ、28項目中7項目(25.0%)で、「実施状況」が「主導性」を有意に上回った。また、有意差は認められなかったが、「地域の社会資源の開発」をはじめとする7項目では、「主導性」が「実施状況」を上回った。

表2 相談員業務の内容

No.	項目	実施状況	主導性	差	有意水準
1	利用者・家族の入所前相談面接	3.45	3.23	0.22	**
2	入所判定	3.04	2.85	0.19	**
3	予約受付・調整	3.50	3.37	0.13	ns
4	ベッドコントロール	2.90	2.67	0.23	*
5	利用者間の人間関係調整	2.52	2.41	0.11	ns
6	利用者・家族との相談面接	3.16	3.10	0.06	ns
7	レクリエーションの援助	1.56	1.63	-0.07	ns
8	利用者の介護	1.46	1.47	-0.01	ns
9	利用者の送迎	2.72	2.38	0.34	**
10	行事の企画・準備・運営	2.08	1.99	0.09	ns
11	ケアプランの作成	2.58	2.47	0.11	ns
12	ケアプランの利用者・家族への説明	2.82	2.70	0.12	ns
13	利用者・家族へのアフターケア	3.25	3.11	0.14	*
14	利用者の公的手続の代行	2.89	2.90	-0.01	ns
15	施設内の各職種との連絡・調整	3.33	3.24	0.09	ns
16	施設外の関係機関との連絡・調整	3.60	3.50	0.10	ns
17	家族との連絡・調整	3.40	3.27	0.13	*
18	施設内会議の準備・運営	2.71	2.62	0.09	ns
19	施設外会議への参加	3.02	2.82	0.20	*
20	施設の経営管理に関する業務	2.27	2.17	0.10	ns
21	地域の社会資源の開発	2.42	2.55	-0.13	ns
22	ボランティアの受入れ・調整	2.62	2.63	-0.01	ns
23	実習生の受入れ・指導	2.31	2.31	0.00	ns
24	施設内研修の企画・運営	2.33	2.28	0.05	ns
25	調査・研究	2.26	2.27	-0.01	ns
26	職員へのスーパービジョン	2.26	2.30	-0.04	ns
27	苦情対応	3.31	3.20	0.11	ns
28	地域との交流	2.65	2.65	0.00	ns

注1) \*p<0.05 \*\*p<0.01

本研究の結果、ショートステイの相談員業務における「実施状況」と「主導性」は、おおむね一致していることが明らかになった。しかし一部の業務では、「実施状況」が「主導性」を上回っていた。これは、本来他職種が中心または他職種と協働で実施する業務であるにもかかわらず、相談員が担うことになっている可能性を示している。そのためにも、施設内の他職種との業務調整、業務分掌による系統的な体制整備の必要性が考えられる。

なお、本研究は「平成22年度同志社大学大学院高度化研究費」の助成を受けて行った。  
<引用文献>

和気純子(2006)『介護保険施設における施設ソーシャルワークの構造と規定要因』『厚生学の指標』53(15), 21-30.

口村淳(2010)『高齢者ショートステイにおける相談員業務の特徴』『社会福祉学』50(4), 148-160.

東京都社会福祉協議会(2010)『高齢者福祉施設 生活相談員業務指針』東京都社会福祉協議会, 21-42.